

# 『紡ぐ』

2021.6.1 第24号

発行 教育相談室「あした塾」

## 穴水町の未来は どうなるのか

移住・定住促進策を真剣に考えないと...



(町の風景)

『紡ぐ』第1号で、「穴水町は高齢化・過疎化が急速に進み、将来に不安がある」として、「現実をしっかりと受け止め、行政・議会・町民が知恵を出し合って立ち向かうこと」を記事にした。あれから一年が経ちました。今、皆さんはどういう思いをお持ちですか？

穴水町では、「地域おこし協力隊」の後藤孝子さんと高橋武太さんは「穴水町移住定住促進協議会」で人口減少・高齢化対策として移住者を増やすことや、きぎわの創出などの仕事をしています。特に、町内の空き家情報を「協議会」のPCサイト「すまいる穴水」で紹介し、移住希望者に売買や賃貸利用の取り組みをしています。ところが、悩みがあるそうです。町民の皆さんの中には「町外からの移住を嫌むる人が多いように思えること」、「なかなか協力的に見てもらえないこと」などです。不安な気持ちには理解できませんが、町の人口比率では、生産年齢層の倍以上が高齢者という現状があります。町外から若い力を受け入れる「大きな視点」と「大きな心」を持って、課題解決に立ち向かわなければいけないのではないのでしょうか。

### 珠洲市や富山県舟橋村では

珠洲市は県内で最も人口減少が進んでいる村。しかし、昨年度は若い世代の移住定住促進策を進め、過去最多の51人の移住者が出たということです。

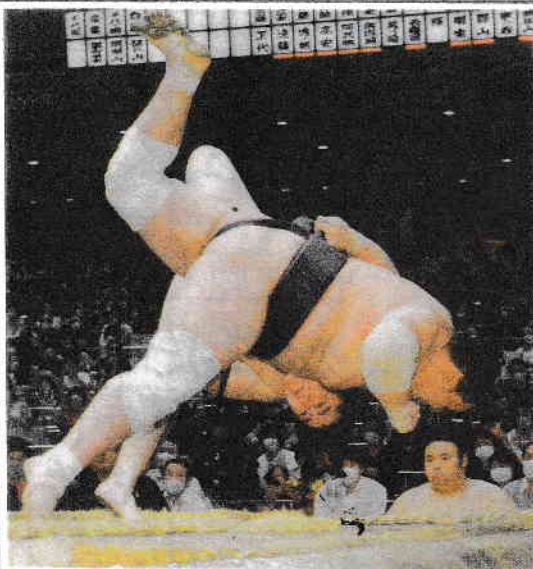
また、富山県で唯一、人口が増加した舟橋村では、二〇二〇年で、人口が約2,200人から約3,200人に増え「奇跡の村」と呼ばれているそうです。若い世代の転入促進策や出生率向上のための「まちづくり」に取り組んでいます。

（注）この紙面は「地域おこし協力隊」提供の資料と七月九日付北国新聞「日曜特版」の記事などを参考にしています。

2021.3.5データ（政府統計e-station）

|         |        |
|---------|--------|
| 穴水町全人口  | 7,838人 |
| 0歳～19歳  | 1,034人 |
| 20歳～64歳 | 2,811人 |
| 65歳以上   | 3,991人 |





# ありがとう! 遠藤関!

盛り上げた5月場所

5月23日 興

奮のち月場所が終わりです。宇水所出身の遠藤関は11月勝4敗、4度目の技能賞で終わりました。解説の舞の海さんが「遠藤さまさま…」と語ったように、この5月場所を盛り上げたのは、まち代いなく遠藤関でした。宇水町、宇水町民にも大きな喜びと元気を与えてくれました。「ケガとの闘い」「休場」と、なかなか元気が出ない記事を書くことでも

きないでいまして「久しぶりにフワフワ、ドキドキの場所」でした。笑顔

の遠藤関が見られ、とても良かったのでは無いでしょうか。また、兄弟子で遠藤関の付け人を務めた大新龍の引退を思いやるエピソードも心に残るものでした。



## こい? 沖波 立戸の浜

諸橋の沖波、立戸の浜。通なびに気になっていた建物と花だん。持ち主の大沼さんご夫婦にお話を聴くことができた。

ご夫婦は金沢に住んでいますが週末になると沖波に来て、花の世話をしたり、野菜を作ったりの生活をしているとのこと。7年前、友人に誘われて、ここ沖波、立戸の浜を訪れたとき、一瞬にして心を奪われ、この地で活動することを決めたそうです。沖波のロケーションはもちろんですが「元気になる『気』を感じた」そうです。荒地を鉄を少しずつ掘り返し、今では見事な花畑、野菜畑に。奥さんが「花の会」のボランティアをしていたこともあり、沖波地区の住民の方々の力を借りながら、おどろき花畑にしました。(沖波の人たちは優しい人たち。大沼談)



### 外の力を受け入れて...

外から宇水を訪れた人は、常に、宇水の良さ、宇水の宝物を見つけてくれる。新しい発想で「おどろき」をしないと先行きが心配です。「外の力を受け入れて思い切った取り組みをすべきでは...

